



風通しのよい開放的な牛舎



現在は県農業青年クラブの伊佐地区会長を務めている。クラブは仕事に役立つ情報の宝庫なのだそう。(1列目右端/橋口さん)



とうもろこしや小麦、ふすまが配合された飼料。離乳後1日3kgを目標に与えている。



伊佐市で畜産業を営む橋口さんご一家

## 「命を無駄にしない」 商品価値の高い子牛を育てるために 生み出された独自の飼育方法

### どう子牛を育ててるか？ 完成した「橋口マニユアル」

伊佐市菱刈で家族とともに繁殖牛と子牛を飼育する橋口さん。父の春男さんが営む畜産農家を継いだきつかけは、中3のときに体験した牛の死産でした。「無力感と「命を無駄にしてはいけない」という気持ちでいっぱいになって、就農を決意したそうです。

その後、伊佐農林高校、県立農業大に進学し、畜産の基礎を学びます。高校の恩師の「子牛を生産したいなら、肥育を学ぶべき」という言葉に後押しされて、農大では肥育コースを選択。「肥育コースの学生は肥育農家の跡継ぎが多く、ニーズや問題点など

### 過去最高の価格で出荷 表れたマニユアルの効果

2016年7月。マニユアルを実践した成果が表れます。出荷した子牛が薩摩中央家畜市場で当時の過去最高となる約149万円で取引されたのです。橋口マニユアルの実践によって商品性が著しく向上したため、2018年3月、このマニユアルを全国農業者会議で発表。成果が認められ、最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。「橋口マニユアル」がすべての牛にとって良いわけではありません。ただ、自分の牛に合った独自のマニユアルを作成することの意義を感じてもらえたらうれしいです」と橋口さんは話します。



最高賞を受賞した全国農業者会議のプロジェクト発表(畜産)は、県内の生産者にとっても大きな刺激となった。



今回の農家  
生産牛農家

取材協力

はしぐち たけし  
橋口 勇士さん

県立農業大学校卒業後、研修を経て2012年帰郷。繁殖牛70頭、子牛45頭を飼育。伊佐地区農業青年クラブ所属。



リアルな声を聞くことができ、とても勉強になりました」と橋口さんは話します。

農場長を務めるなど優秀な成績で農大を卒業した後、薩摩川内市の農業法人での研修を経て、2012年に帰郷。しかし、当時実家の業績は低迷の一途を辿っていました。子牛の体重などが増えず、販売額が落ちていたのです。

そこで橋口さんは、これまでの飼育方法を改良するために、県の育成マニユアルをもとに餌を与える量や種類の見直しに着手。行政やJAの協力を得ながら餌の量と子牛の体重を3年間計測し、離乳時に与える飼料の量を約3倍に増やして成育を向上させる独自の「橋口マニユアル」を完成させました。

### 初心を胸に、牛にも 人にもやさしい農業を

橋口さんは県農業青年クラブの勉強会や先進地視察などに積極的に参加し、最近ではマーケティングやブランディングを勉強しているそうです。

橋口さんの心の片隅には、いつもあの体験があります。「命を無駄にしない。自分にとってそれは「死産をなくし、商品価値の高い子牛を出荷すること」です」。マニユアル完成後も「牛にも人にも負担をかけない農業」を目指し、また一歩ずつ歩みを進めています。

#### EVENT

### 農業大学校オープンキャンパス

第2回 8月2日(木) 第3回 8月19日(日)

時間:午前9時30分(受付)~午後3時20分

■申し込み方法  
農業大学校HPに掲載されている参加申込書に必要事項をご記入の上、下記までFAXをお送りください。

■問い合わせ先  
県立農業大学校 TEL:099-245-1071 FAX:099-245-6352